

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		川崎西部地域療育センター保育所等訪問支援事業所		公表日		令和8年3月24日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点	
環境 制・ 整 運 備 営	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	13	1	必要に応じてメモ等を用いて視覚化して分かりやすく伝える工夫をしている	各職員の判断となっているため、ある程度のマニュアルがあると様々な職員も対応が可能になると思う	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	4	希望者がどのような経緯で対象になっていくかを全体で確認できると良い職種がかたよっているようにおもう		
業務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	5	書式が多く作成の負担が大きいため、作成しているうちにパターン化・形骸化しやすい	担当者しか参画していない。担当SWも参加すると良いと思う	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14	0	保護者とのやり取りは丁寧に行えていると感じる		
	5	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	2	定期的に意見を聞く場面はないように感じる	定例の会議を実施しているが、業務改善に向けた意見交換も活発化していく	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14	0	第三者評価の項目ではとらえきれない部分での課題もある		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	5	新人研修、階層別研修が計画されており、研修がシステム化されている		
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	14	0	アセスメントシートで詳細にニーズを把握しながら、課題を整理した上で適切な支援目標を立てている		
	9	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	2	こども、保護者に関わる職員で支援計画を共有している	さらに支援の状況について、情報共有を密にしながら、必要な検討がタイムリーに行うようにしていく	
	10	個別支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	14	0		事前にニーズを把握したり、支援後のフィードバックをタイムリーに行えるように工夫して、連携ができています	
	11	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12	2	直接支援に関わる職員間では、支援計画のもとに支援が行われ、職員間でフィードバックを行っている	訪問支援チーム全体で、支援効果を共有、検証していく機会を作っていく	
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	2			
	13	個別支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	13	1	個別対応が必要なケースでハード面や医療ケア面で行政の支援も含めた対応を検討したいこともある		
	14	個別支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14	0	計画に沿った支援を行いながら、訪問先の環境変動、こどもの変化で計画の見直しが必要であれば柔軟に変更していく		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	4	その日行われる支援は個々にケース対応することが多いが、定例ミーティングで情報共有する機会を作っている	所内でソーシャルワーカーとも相談し学校と話し合う機会を作るなど、さらにチームで連携した支援を行う	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	3	定例のミーティングで訪問した際のトピックスを共有するようにしている		
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	14	0	訪問先の環境や支援の考え方を尊重した上でより実践的な支援方法の提案ができるように心がけている		
	18	毎回の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	0		多職種でチームを組んでいる強みを活かせるようにケースカンファレンス的な検討の機会を設定していく	
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	0	適宜訪問先の担当者、保護者に支援内容を共有しながら、見直しが必要であればタイムリーに行うようにしている	限られた訪問回数の中で、適切な評価と支援方針の見直しができる技術をさらに高めていく		
関	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13	1		看護師の参加を含めて、多職種が参加できる体制整備をすすめていく	
	21	地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12	2	個々の状況から教育機関とも情報を共有しながら支援を行うようにしている	特に医療的ケアを必要とするこどもへの支援では、さらに関係機関との連携ができるとよい	

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	22	就園・就学時の移行の際には、保育所等や学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0		ケースバイケースだが、昨年度のケースは園・学校・子家センターと就学に向けて引き継ぎ会議を行った
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9	5	事業所全体の研修に加えて、部署、職種毎に必要な研修を計画している	テーマを限定せずに外部研修にも積極的に参加し、知見を広げていく
	24	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	9		
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	14	0	訪問支援の後には、こどもの状況と支援内容を伝え、こどもの課題について相互理解を図りようとしている	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	7	診療報酬の枠組みのなかで保護者のみのグループ面談は実施が難しい	パッケージでのプログラムは実施していないが、個別面談のなかで上記テーマで面談することもある。
保 護 者 等 へ の 説 明 等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13	1		
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	14	0	説明の際に趣旨説明の書面もお渡しして、丁寧に説明を行っている	
	29	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13	1	アセスメントシートでニーズを把握しながら面談等でも丁寧に聞き取りを行っている	
	30	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	14	0		
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	0	所全体として、様々な職種が相談内容により対応できるシステムになっている	保護者へも面談だけではなく、電話などでも相談対応ができることもインフォメーションしていく
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	8	所全体のプログラムの中に「先輩保護者」に來所していただいて経験交流会を行っている	事業所で行っている保護者向け学習会(経験交流会)についても情報提供していく
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14	0	申し入れなどがあった場合には、管理職に報告が上がり組織的な対応を行うようになっている	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	8		ホームページの活用も含めて積極的な情報発信に行っていくようにする
訪 問 先 施 設 へ の 説 明 等	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	0	法人の個人情報管理規定のに沿って、取り扱いには慎重に行っている	
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13	1	こどものコミュニケーションスタイルに合わせたわかりやすい情報伝達方法での意思疎通を心がけている	
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	14	0		今後も訪問先の担当者とのコミュニケーションを大切に支援を展開していく
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	12	2	訪問は行った後に、訪問先施設の担当者として演習内容の情報共有と意見交換を行っている	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	14	0	訪問実施後にこどもの状況、支援内容などを家族へ報告を行うようになっている	訪問後、タイムリーに家族との連絡が取れない場合もあり、事前に家族との調整も必要
非 常 時 等 の 対 応	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	0	定期的にミーティングを行い、組織的に決定した上で支援を行うシステムになっている	
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	14	0		
	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	1	各マニュアルを策定し、必要な研修、訓練を定期的に行っている	家族への周知も説明会等で積極的に行っていく
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12	2	安全計画を作成し、必要な研修、訓練を定期的に行っている	
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	0	事業内で共有すべきことは、「事故報告・ヒヤリハット報告書」を作成し、再発防止策を検討・共有している	
非 常 時 等 の 対 応	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14	0	こどもの人権の尊重を考えるグループワーク研修を行うなど、虐待防止に向けた取り組みをしている	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	14	0	定期的にミーティングを行い、組織的に決定した上で支援を行うシステムになっている	